

ご存じですか！文化財

79

「龍蔵寺の大イチョウ」

市指定天然記念物

昭和51年5月10日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



大門町18-51

より往生させた。白龍の首のあったところに寺を建て、白龍の龍と教蔵上人の蔵の字をとって、『龍蔵寺』と名付けた。そして、尾のあったところに弁財天をまつり、頭と尾のあったところにイチョウを植えた。」とあります。

その後、弁財天をまつった諏訪神社境内のイチョウは落雷により枯れてしまったといえます。

市内には大きなイチョウがいくつかありますが、龍蔵寺の大イチョウは、春の新緑と秋の紅葉が特に美しく、訪れる人々を魅了します。

注1 1丈は約3m

注2 念仏(南無阿弥陀仏)を10回唱えること

龍蔵寺は、古仏眼山と号し京都・知恩院の末寺で、文和4(1355)年に教蔵上人によって開かれました。境内中央には、高くそびえるイチョウがあります。このイチョウは樹齢約660年といわれ、幹回り4.3m、樹高約25mと市内に現存するイチョウの木の中でも屈指の巨木です。

龍蔵寺の縁起には、「昔三侯にあった鬼島に百丈(※注1)の大白龍が棲み、人々を悩ませていた。そこに布教でこの地にやってきた教蔵上人が鬼島の白龍を十念(※注2)に

